

「テプラ クリエイター」の起動～終了

起動する

1

「テプラ クリエイター」を起動する



1 ダブルクリック

デスクトップの[テプラ クリエイター]アイコンをダブルクリックします。

MEMO

- ・インストール時に、「デスクトップにショートカットを作成する」のチェックをはずした場合は、デスクトップの[テプラ クリエイター]アイコンがありません。以下の方法で起動してください。
Windows 11/10の[スタート]画面で、[すべてのアプリ] – [TEPRA] – [テプラ クリエイター]をクリックします。

注意

- ・ディスプレイのテキストサイズを規定のサイズより大きくすると、ウィンドウが画面からはみ出し操作できなくなることがあります。

アップデート通知機能

「テプラ クリエイター」に新しいバージョンがリリースされると、お知らせを通知します。通知は、「テプラ クリエイター」を起動したときに表示されます。



MEMO

- ・インターネットブラウザが起動し、「テプラ クリエイター」のダウンロードページを表示します。
- ・アップデート通知機能の利用には、インターネットへの接続環境が必要です。インターネットに接続されたパソコンから利用してください。
- ・「次回からこのメッセージを表示しない」にチェックを付ける、または[設定] - [環境設定] - [一般]タブ内の「起動時にアプリケーションの更新通知を表示する」のチェックをはずすと、次回以降アップデート通知は表示されません。

新規作成

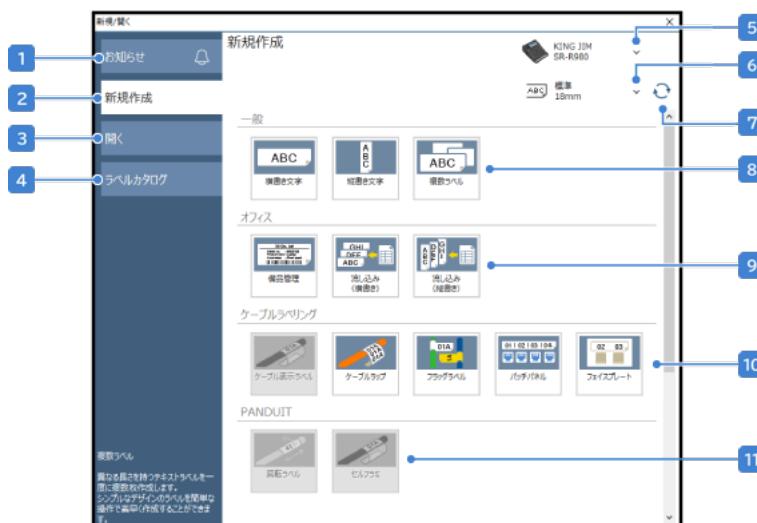
ラベルを新規に作るときは、最初に作成方法を選択します。

1

「テプラ クリエイター」を起動する
[新規/開く]画面が表示されます。

2

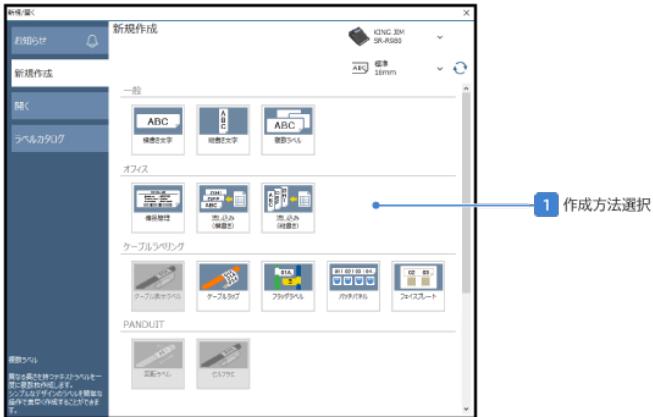
[新規/開く]画面で各項目を設定する



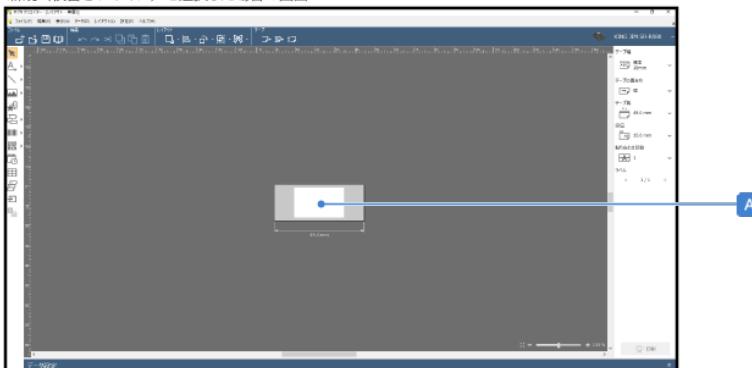
| | |
|---------------------------|--|
| 1 お知らせ | 当社からのお知らせやおすすめ情報をお届けします。 |
| 2 新規作成 | ラベルを新しく作成するときにこのタブを選択します。 |
| 3 開く | 最近使ったファイルや、過去に作成したラベルのデータを開くときにこのタブを選択します。 |
| 4 ラベルカタログ | ラベルカタログからデザインを選択してラベルを作成するときにこのタブを選択します。 参照 「ラベルカタログで作成する」 |
| 5 機種の選択 | 接続している「テプラ」本体の機種を選択します。 |
| 6 テープ幅 | 使用するテープの種類、幅を選択します。 |
| 7 現在の情報を取得 | 接続している「テプラ」にセットされているPROテープカートリッジの情報を取得し、自動でテープ幅を設定します。 |
| 8 新規作成(一般) | 横書きラベル、縦書きラベル、複数ラベルを新規で作成するときに選択します。 |
| 9 新規作成(オフィス) | 備品管理ラベル、流し込み(横書き)ラベル、流し込み(縦書き)ラベルを新規で作成するときに選択します。 |
| 10 新規作成(ケーブルラベリング) | ケーブルラベルを新規で作成するときに、5種類のデザインから選択します。 参照 「ケーブルラベリングをする」 |
| 11 新規作成(PANDUIT) | カットラベル・パンドウイットを新規で作成するときに選択します。 参照 「カットラベル・パンドウイットに印刷する」 |

3

5 ～ 7 で機種やテープを設定後、ラベル作成方法(8 ～ 10)の中から作りたいラベルのボタンをクリックする



新規（横書きデザイン）を選択した場合の画面：



レイアウト編集画面に設定したテープが表示され、入力や編集が可能になります。

ラベルの印刷範囲(A)に入力してください。白い部分が印刷範囲を、グレーの部分が余白を表現しています。
印刷範囲からはみ出した内容は印刷されません。

MEMO

・[新規/開く]画面は、ツールバーの[新規ファイル]をクリックするか[ファイル]－[新規作成]を指定すると開きます。

・テープの長さや幅、余白は、テープ設定ツールバーの各ボタンで変更できます。

参照  「テープ設定ツールバーで変更する」

・ハーフカット搭載機種で「ハーフカットしない」に設定している場合、入力された内容やテープ設定に関わらず、約19mm未満のラベルは印刷できません。約19mm未満のテープ長を設定した場合、最短約19mmのラベルで印刷されます。

・「ハーフカットエラーを検出する」にチェックをした場合、ラベルの長さによってハーフカットしろが長くなる場合があります(対象機種:SR-R7900P)。

・「余白」で「フチなし」にチェックを付けると、ラベル端まで印刷できます。フチなし印刷は、印字が欠けたり乱れたりする場合があります。「フチなし」は、フチなし印刷対応機種の場合のみチェックできます(対象機種:WR1000)。

・「テープ種類」でカットラベルを選択したときは、ラベル形状の目安としてラベル範囲(白い部分)が表示されます。カットラベルは、カットラベル対応機種のみ選択できます(対象機種:SR-R980/SR970/SR5900P)。

参照  「カットラベル印刷をする」

・ブロックの位置関係がわかりづらいときは、[表示]メニューでグリッドやガイドラインを表示することもできます。

・「テープ種類」で「りぼん」または「備品管理」を選択したときは、レイアウト編集画面にテープ専用画面が表示されます(対象機種:SR-R980/SR-R680/SR-R7900P)。

参照  「備品管理ラベルを作成する」

参照  「表組みを挿入する」

参照  「りぼん連続印刷をする」

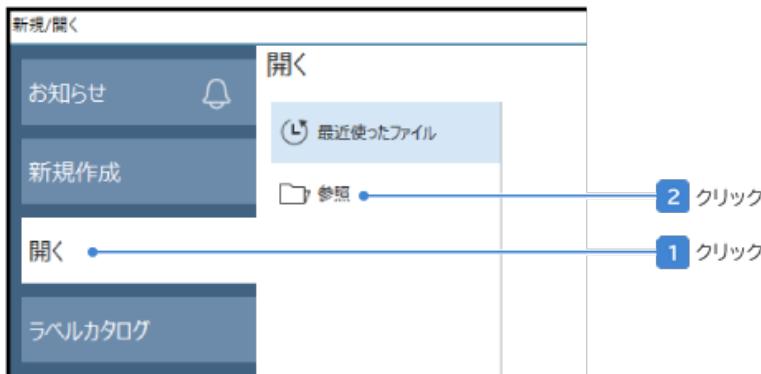
参照  「お名前タグ印刷をする」

ファイルを開く

ファイルに保存してあるラベルを表示するには、目的のファイルを開きます。

1

[新規/開く]画面の[開く]-[参照]をクリックする



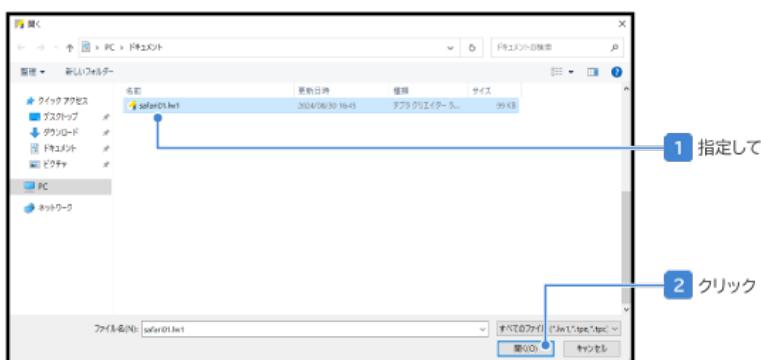
[開く]画面が表示されます。

MEMO

- ・[ファイル]-[開く]を選択しても、[開く]画面が表示されます。

2

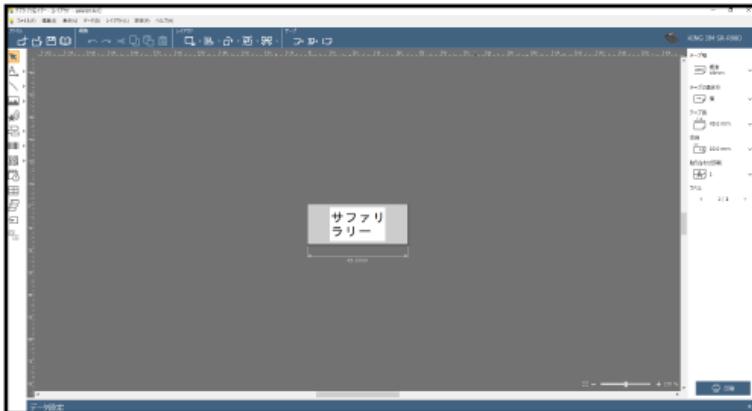
ファイルを指定して[開く]をクリックする



[開く]画面にファイルがない場合は、フォルダを切り替えて保存した場所を表示させます。

3

表示されたファイルを編集する



参照 「文字を入力する」

MEMO

- ・「テプラ クリエイター」では「テプラ クリエイターファイル(lw1)形式」、「TEPRA SPC10ファイル(tpe)形式」、「SPC9 DRAW3ファイル(tpc)形式」のファイルのみ開くことができます。そのほかのアプリケーションソフトとは互換性がありません。
- ・「テプラ クリエイター」で「tpe形式」「tpc形式」のファイルを開くと、レイアウトが崩れる場合があります。また、以下のオブジェクトを含むファイルを「テプラ クリエイター」で開くと次の通りになります。
 - ・文字地紋、創作地紋:表示されません。
 - ・アートテキスト:通常のテキストとなります。
 - ・イメージの型抜き:型抜きされていないイメージとなります。
 - ・定型外国語:フォントを正しく表示できません。
- ・ここでは事前に「safari01」というファイルを保存していた場合を例に説明しています。初期状態では「safari01」というファイルは存在しません。

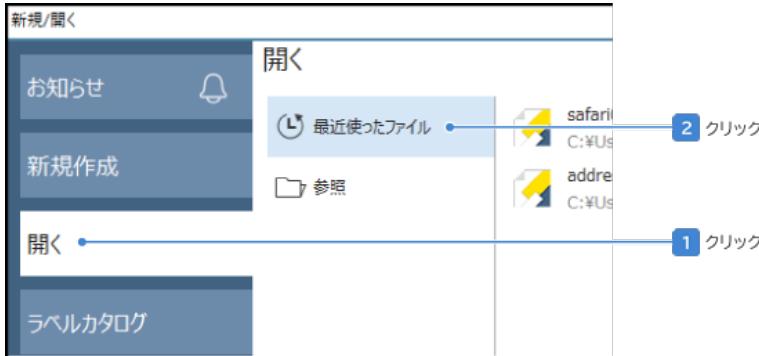
参照 「文書を保存する」

履歴から呼び出す

最近使用したファイルの一覧が表示され、選択して呼び出せます。履歴には最大25ファイルまで表示できます。

1

[新規/開く]画面の[開く]–[最近使ったファイル]をクリックする



履歴が一覧表示されます。

2

開きたいファイルをダブルクリックする



指定したファイルが表示され編集ができます。

参考 「文字を入力する」

MEMO

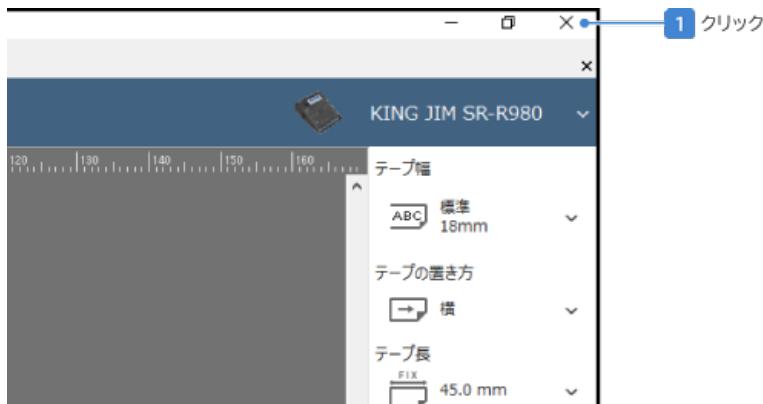
・ここでは事前に「safari01」というファイルを直前に使用していた場合を例に説明しています。初期状態では履歴にファイルは存在しません。

参考 「文書を保存する」

「テプラ クリエイター」を終了する

1

画面右上の × をクリックする



文書が保存されていれば、そのままウィンドウが閉じます。

MEMO

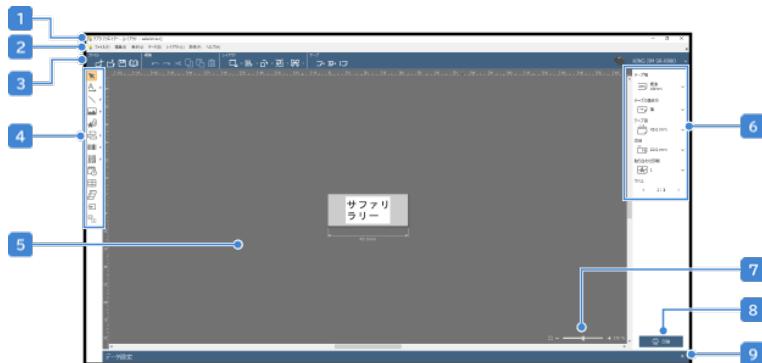
- ・「テプラ クリエイター」の終了は、[ファイル] - [終了]を選択しても実行できます。

注意

- ・文書を保存しないまま終了操作をおこなったときは、保存を確認する画面が表示され、[はい]を選択すると [名前を付けて保存]画面が表示されます。保存を確認する画面で[いいえ]を選択すると、作った内容が破棄され「テプラ クリエイター」を終了します。一度データの内容が破棄されると、元に戻すことができませんので十分注意してください。

画面各部の名称とはたらき

画面各部の名称



| | |
|--------------|---|
| 1 タイトルバー | 作成中のラベルのファイル名などを表示します。 |
| 2 メニューバー | 主な機能がメニューの中に含まれています。 |
| 3 ツールバー | 編集に役立つ機能がアイコン表示されています。 詳細は下記の「ツールバー」を参照してください。 |
| 4 ツールボックス | 詳細は下記の「ツールボックス」を参照してください。 |
| 5 レイアウト編集画面 | 作成中のラベルのイメージを表示します。 |
| 6 テープ設定ツールバー | テープに関する設定をおこないます。 参照  「テープ設定ツールバーで変更する」 |
| 7 拡大・縮小 | レイアウト編集画面を拡大・縮小します。 |
| 8 印刷ボタン | 作成したラベルを印刷します。 |
| 9 データ設定 | データ設定画面を呼び出し、流し込み印刷用のデータを作成します。 |

ツールバー

| | |
|--|--|
|  新規ファイル | 参照  「新規作成」 |
|  開く | 参照  「ファイルを開く」 |
|  保存 | 参照  「文書を保存する」 |
|  ラベルカタログ | 参照  「ラベルカタログで作成する」 |
|  元に戻す | |
|  やり直す | |
|  切り取り | 参照  「ブロックを複写する」 |
|  コピー | 参照  「ブロックを複写する」 |
|  貼り付け | 参照  「ブロックを複写する」 |
|  削除 | 参照  「ブロックを削除する」 |
|  重ね順 | 参照  「ブロックを前面・背面に移動する」 |
|  配置 | 参照  「ブロックの位置を揃える」 |
|  回転 | 参照  「ブロックを回転する」 |
|  グループ化 | 参照  「ブロックをグループ化する」 |
|  りぼん(りぼん連続・お名前タグ) | 参照  「りぼん連続印刷をする」 |
| | 参照  「お名前タグ印刷をする」 |
|  テープ送り | |
|  テープ送りカット | |
|  テープ情報取得 | 参照  「新規作成」 |
|  KING JIM SR-R980 | 機種の選択 |

MEMO

- ・「テプラ」プリンタドライバを複数インストールしている場合、ツールバーの「機種の選択」から接続している「テプラ」本体の機種を変更できます。



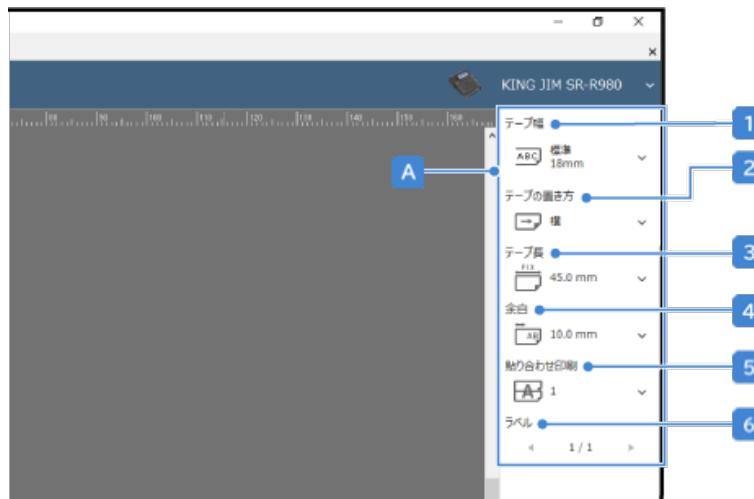
■ツールボックス

| | |
|-----------------|--|
| ブロック編集 | 参照 「ブロックを編集する」 |
| 文字挿入 | 参照 「文字を入力する」 |
| 図形 | 参照 「図形を描画する」 |
| イメージ/スクリーンキャプチャ | 参照 「イメージファイルを挿入する」 参照 「スクリーンキャプチャを挿入する」 |
| 絵文字・記号 | 参照 「絵文字・記号を選択して挿入する」 |
| 外枠/地紋 | 参照 「外枠を挿入する」 参照 「地紋を挿入する」 |
| バーコード | 参照 「バーコードを挿入する」 |
| QRコード | 参照 「QRコードを挿入する」 |
| 日付・時刻 | 参照 「日付・時刻を指定して挿入する」 |
| 表組み | 参照 「表組みを挿入する」 |
| 連番 | 参照 「連番を設定してラベルを作成する」 |
| 流し込み枠の設定 | 参照 「データを流し込む」 |
| 翻訳 | 参照 「文字を翻訳する」 |

テープ設定を変更する

テープ設定ツールバーで変更する

テープの長さや幅、余白などはテープ設定ツールバー(A)で変更できます。



| | |
|------------------|--|
| 1 テープ幅 | 使用するテープの種類と幅を選択します。 |
| 2 テープの置き方 | 縦: テープが縦置きで表示されます(テキストは縦書きになります)。 横: テープが横置きで表示されます(テキストは横書きになります)。 |
| 3 テープ長 | テープの長さを「自動」か「定長」のどちらかで設定します。 自動: 文章の長さに応じてテープの長さが自動的に調節されます。 定長: 長さを数値で設定してラベルを作ります。 |
| 4 余白 | ラベル前後の余白を数値で指定します。 |
| 5 貼り合わせ印刷 | テープ幅×倍率で貼り合わせるテープを作成します。 例えば「2倍」の場合、画面ではテープが2枚貼り合わされた状態で表示されます。 |
| 6 ラベル | 作成するラベルが複数ある場合、各ラベルのレイアウト編集画面に移動できます。 |

MEMO

- ・定長印刷で指定するラベルの長さは目安です。実際のできあがりの長さと完全には一致しません。
- ・テープ長を定長にした場合、テープ長さはテキストボックスに直接入力するか、テキストボックス横の上下ボタンで10mm～3,000mmの範囲で指定します。
- ・「余白」で「フチなし」にチェックを付けると、ラベル端まで印刷できます。フチなし印刷は、印字が欠けたり乱れたりする場合があります。「フチなし」は、フチなし印刷対応機種の場合のみチェックできます(対象機種:WR1000)。
- ・カットラベルを選択したときは、ラベル端まで印刷できます。カットラベルは、カットラベル対応機種のみ選択できます(対象機種:SR-R980/SR970/SR5900P)。

参照  「カットラベル印刷をする」

- ・「りぽん」または「備品管理」を選択したときは、レイアウト編集画面にテープ専用画面が表示されます(対象機種:SR-R980/SR-R680/SR-R7900P)。

参照  「デザインを選んで備品管理ラベルを作成する」

参照  「表組みを挿入する」

参照  「りぽん連続印刷をする」

参照  「お名前タグ印刷をする」

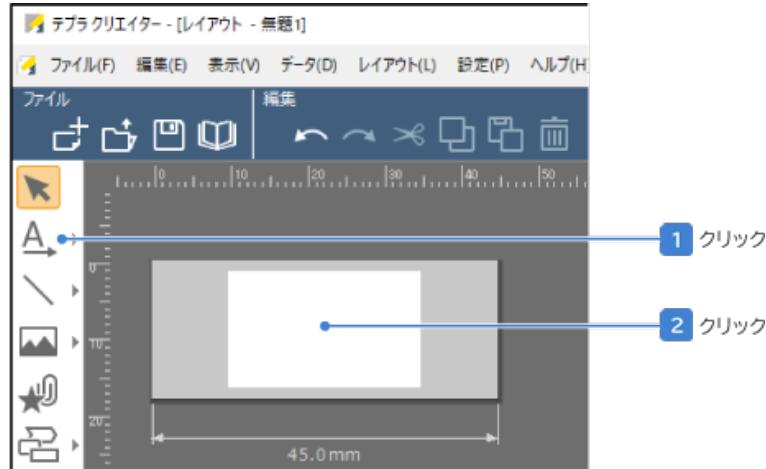
「テプラ クリエイター」の基本操作

ここでは、例として横書きのラベルを作成する手順を説明します。

文字を入力する

1

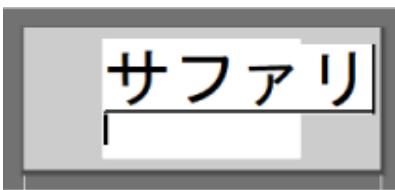
ツールボックスの  (横書き文字) をクリックし、文字を入力する位置をクリックする



文字を入力できる状態になります。

2

文字を入力する



<Enter>

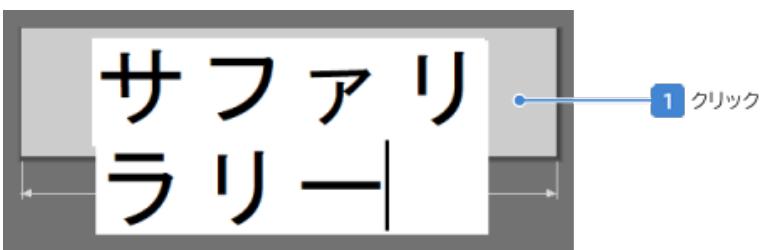


文字入力後、キーボードの<変換>キーで変換し、<Enter>キーで確定します。

文字確定後<Enter>キーを押すと、次の行に改行され、2行目が入力できます(A)。

3

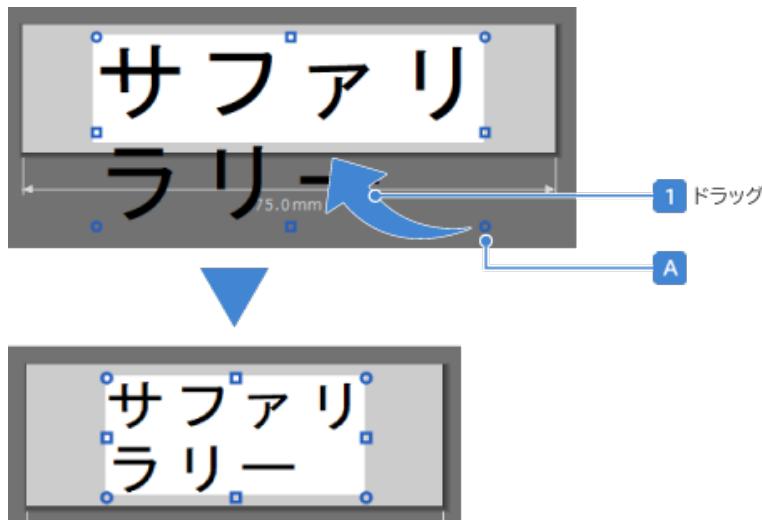
テキストブロック以外の場所をクリックする



テキストブロックがハンドル(A)つきで表示されます。

4

カドのハンドル(A)をドラッグして、テキストブロックの枠サイズをラベル幅に合わせる

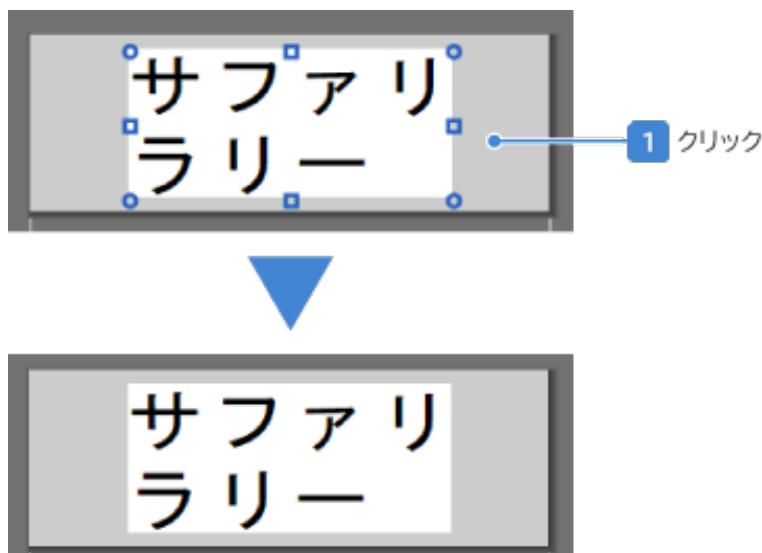


MEMO

- ・ハンドル表示中のテキストブロックは、内容、位置、枠サイズを変更できます。
枠サイズを変更するときは、ハンドルをドラッグします。
- カドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに文字サイズを拡大、縮小できます。
- また、キーボードの<Shift>もしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの縦横比を自由に変更しながら文字を拡大、縮小できます。
- ・表示されるオブジェクトのサイズ・位置はイメージです、実際のラベルとは誤差があります。
- ・文字を縦書きにするときは、ハンドル表示中にテキスト設定画面の (縦書き) をクリックします。
参照 「縦書きにする」
- ・テキストブロックを複数使って、縦書きと横書きが混在するラベルを作成することもできます。

5

テキストブロック以外の場所をクリックする



ハンドルが消えてテキストブロックが確定します。

【改行したテキストブロックを1行に戻すときは

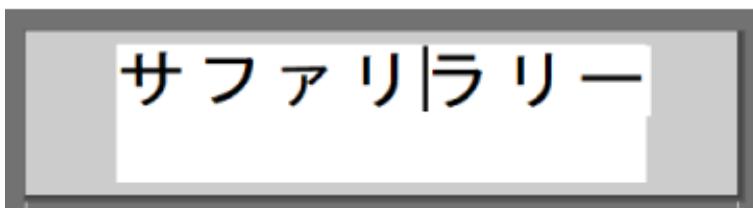
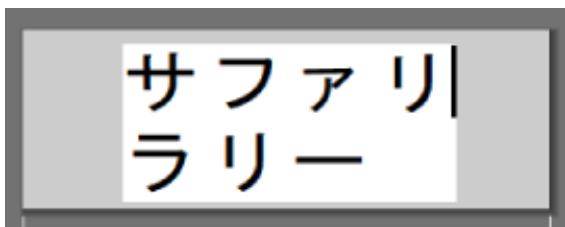
①

テキストブロックをダブルクリックして「テキスト編集」の状態にする

テキストブロック内に文字カーソルが表示され、文字を入力できる状態になります。

②

文字カーソルを1行目の行末に移動し、<Delete>キーを押す



改行が削除され、1行になります。文字カーソルを2行目の行頭に移動してから<BackSpace>キーを押して、改行を削除することもできます。

データ設定画面からテキストを入力する

「テプラ クリエイター」では、データ設定画面からテキストを入力することでラベルに入力内容を直接反映させることができます。

1

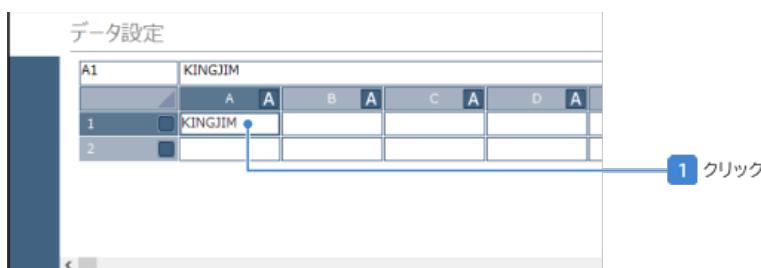
画面下部の「データ設定」から をクリックする



データ設定画面が表示されます。

2

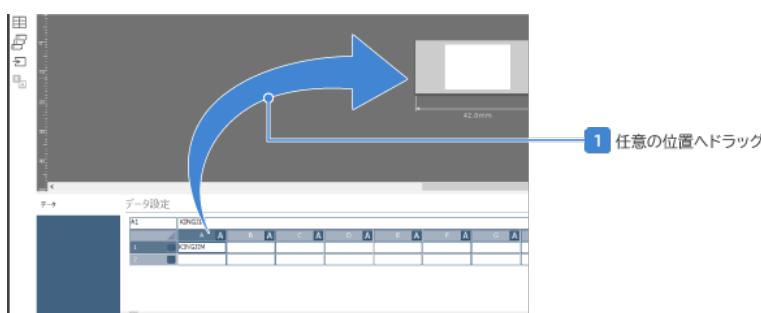
データ設定画面でテキストを入力する



1枚目のラベルに印字したいテキストをA1セルに入力します。

3

ラベルに入力内容をドラッグする



手順②で入力したテキストのうち、ラベルに反映したい列タイトルをドラッグします。

4

ラベルに反映される

ドラッグした位置にテキストボックスが表示され、データ設定画面の各セルに入力した内容が反映されます。

参照  「データを流し込む」

MEMO

・データ設定画面の1行目に入力した内容は、作成するラベルの1枚目に反映されます。2行目に入力した内容は、作成するラベルの2枚目に反映されます。

・テキストのフォントスタイルや修飾を変更したい場合は、テキストボックスをクリックし、表示されるテキスト設定画面から変更してください。

参照  「文字の編集」

・データ設定画面の **A** をクリックすると、セルの列属性をテキスト、イメージまたはバーコードに変更することができます。

・列属性がイメージの場合、セルに入力された内容はレイアウト編集画面にイメージとして反映されます。

参照  「テキスト以外のデータを入力する」

・Excelなどすでに作成されている外部データを  (インポート)で読み込んで利用することも可能です。また、データ設定画面で作成した内容を  (エクスポート)でExcelなどのデータ形式で保存することも可能です。(XLSX、XLS、CSV、txtデータに対応)

参照  「すでにあるデータを読み込む」

参照  「データを保存する」

・データ設定画面の入力内容をすべて削除したい場合、「すべてのデータをクリア」をクリックします。

※列属性、列タイトルは削除されません。

図形を描画する

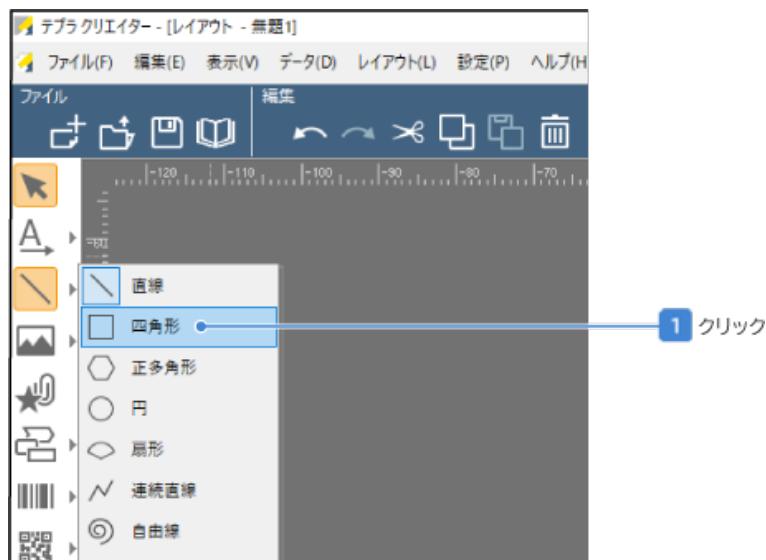
ツールボックスの図形ボタンを利用すると、さまざまな図形を描画できます。ここでは、四角形を描画する方法を例に説明します。



| | |
|---------|-----------------|
| (直線) | 直線を描きます。 |
| (四角形) | 四角形を描きます。 |
| (正多角形) | 正多角形を描きます。 |
| (円) | 円を描きます。 |
| (扇形) | 扇形、弓形、円弧を描きます。 |
| (連続直線) | 連続した直線で図形を描きます。 |
| (自由線) | フリーハンドで図形を描きます。 |
| (ベジエ曲線) | ベジエ曲線を描きます。 |

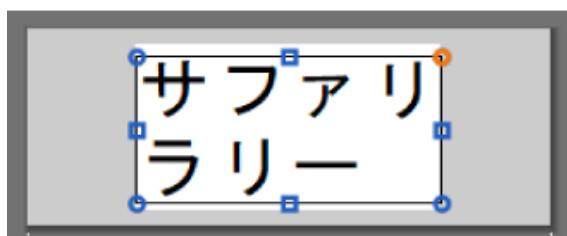
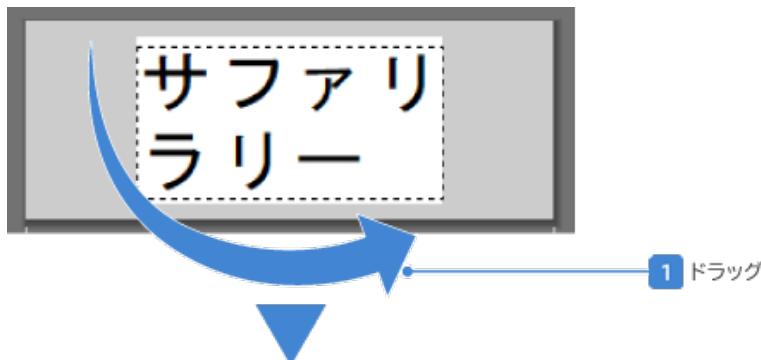
1

ツールボックスの[図形]ボタン右側の[▶]をクリックし、□(四角形)ボタンをクリックする



2

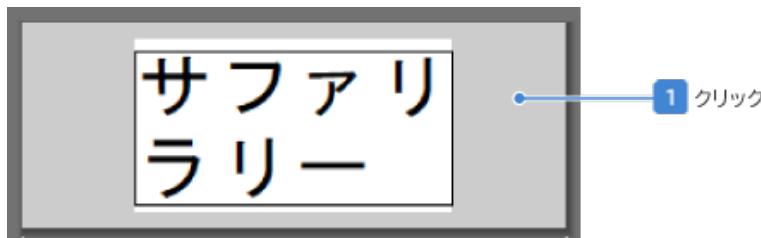
描画する始点から終点までマウスでドラッグする



四角形を描画できます。

3

図形以外の場所をクリックする



ハンドルが消えて図形が確定します。

MEMO

- ・四角形の場合は、右上カドのオレンジ色のハンドルをドラッグすると角の丸みを調整できます。
- ・正多角形の場合は、描画後に図形設定画面で多角形の角数と形を変更できます。
- ・扇形の場合は、点線で円を描画後に表示される半径のガイド線をドラッグして描画する角度を指定します。ドラッグ中に表示される点線を目安に扇形を描画できます。
- ・図形描画後、線種の変更などの編集は図形設定画面からおこないます。

参照 ↗「図形の編集」

印刷する

1

「テプラ」本体に印刷するサイズに合ったテープカートリッジがセットされていることを確認する

「テプラ」Grandは、テープカートリッジとインクリボンカートリッジがセットされていることを確認します。

2

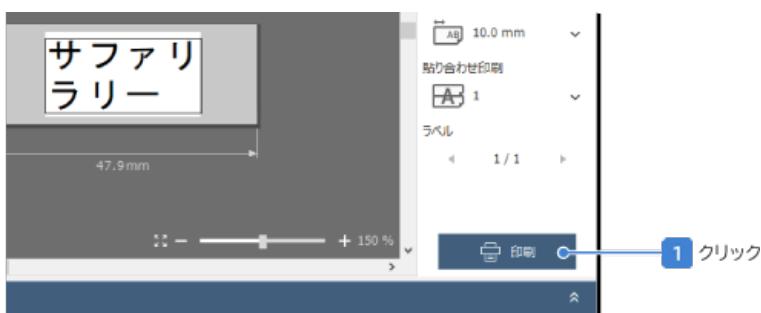
「テプラ」本体をパソコンに接続し、電源を入れる

SR-R980/SR970/SR-R680/SR670/SR-R560/SR-R7900P/SR5900P/SR-R5600P/SR5500P/SR3900P/SR3700P/SR3500P/WR1000は、パソコンとUSB接続することで印刷可能状態になります。

上記以外の「テプラ」本体の場合は[パソコンリンク]または[PCリンク]ボタンを操作します。

3

[印刷]をクリックする



[印刷]画面が表示されます。

MEMO

- ・[印刷]画面は、[ファイル] - [印刷]を選択しても表示されます。
- ・印刷前にはラベル全体の長さやレイアウトを確認してください。

注意

- ・印刷中や、テープ送り時にACアダプタ、USBケーブル、LANケーブルをはずさないでください。
「テプラ」本体の電源をOFFにしたあとに、はずしてください。
- ・長いラベルを印刷する場合、印刷開始までに時間がかかる場合があります。
- ・カットラベルを印刷するときは、必ずカットラベルの形状を確認してください。カットラベルの形状が一致しないと正しく印刷されません。

参照  「カットラベル印刷をする」

4

[印刷]画面の内容を確認する



| | |
|-----------------|---|
| 1 プリンタ機種 | プリンタ機種が接続している「テプラ」本体であることを確認します。違う「テプラ」本体が選択されているときは、[キャンセル]をクリックして印刷を中止し、ツールバーで機種を選択しなおしてください。 参照  「画面各部の名称」 |
| 2 印刷部数 | 同じラベルを複数印刷するときは、「印刷部数」を変更します。複数印刷を指定しても、「貼り合わせ印刷」、「流し込み」以外では順序印刷を変更できません。 参照  「データを流し込み印刷する」 参照  「貼り合わせラベルを印刷する(貼り合わせ印刷)」 |

MEMO

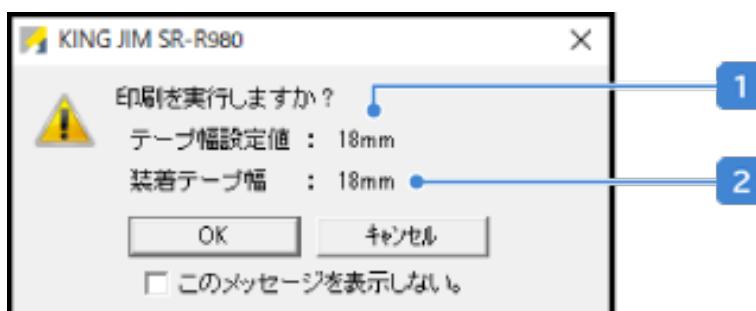
- 上記[印刷]画面で  (プロパティ)をクリックすると、用紙の設定、テープカットの方法、テープ幅確認メッセージの有無などを変更できる[プロパティ]画面が表示されます。また、メニューバーで[ファイル]-[プリンタの設定]を選択しても、[プロパティ]画面が表示されます。この[プロパティ]から変更したプリンタドライバの設定内容はラベルソフトを終了すると初期設定に戻ります。プリンタドライバの初期設定を変更したい場合は、[コントロールパネル]から開く[デバイスとプリンターの表示]画面で設定してください。

5

内容が正しければ[印刷]をクリックする
テープ幅確認のメッセージが表示されます。

6

テープ幅を確認する



1 テープ幅設定値

新規作成時やテープ設定などで設定したテープ幅が表示されます。

参照  「新規作成」

参照  「テープ設定ツールバーで変更する」

2 装着テープ幅

「テプラ」本体に装着されているテープカートリッジのテープ幅が表示されます。
「テープ幅設定値」と「装着テープ幅」が異なっていると、目的の印刷結果が得られません。そのときは[キャンセル]をクリックして「テープ幅設定値」と「装着テープ幅」を合わせてください。

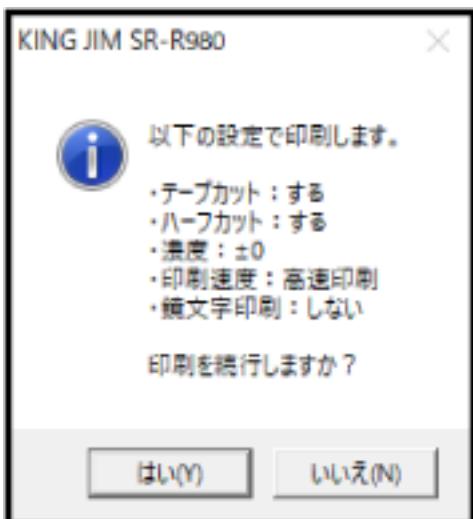
7

[OK]をクリックする

印刷設定確認メッセージが表示されます。

8

印刷設定を確認する



カットや濃度等の設定値が表示されます。

参照 「テープ設定ツールバーで変更する」

MEMO

- ・テープ幅確認メッセージと印刷設定確認メッセージは表示しないように設定することもできます。表示しないように設定するには、[プロパティ]画面の[オプション]タブをクリックし、「テープ幅確認メッセージを表示する」または「印刷設定確認メッセージを表示する」のチェックマークをはずしてください。

9

[はい]をクリックする

印刷を開始します。「印刷中」の画面で[中止]をクリックすると、印刷を中止します。

注意

- ・「テプラ」本体の印刷中や、テープ送り時にACアダプタ、USBケーブル、LANケーブルをはずさないでください。本体の電源をOFFにしたあとに、はずしてください。
- ・塗りつぶしの多い図形や太い文字を印刷すると、インクのにじみやツブレが発生することがあります。また、細い線や細い文字などは、カスレや抜けが発生することがあります。
- ・テープ設定ツールバーの「フチなし」にチェックを付けて印刷するとフチなし印刷になります。フチなし印刷は、印字が欠けたり乱れたりする場合があります。「フチなし」は、フチなし印刷対応機種の場合のみチェックできます(対象機種:WR1000)。
- ・カットラベルを選択したときは、ラベル端まで印刷できます。カットラベルは、カットラベル対応機種のみ選択できます(対象機種:SR-R980/SR970/SR5900P)。

参照  「カットラベル印刷をする」

- ・テープが終了するなどで印刷が中断されたときに印刷再開を設定する画面が表示された場合は、印刷を再開するかキャンセルするかを選択できます(対象機種:SR-R980/SR970/SR-R680/SR670/SR-R7900P/SR5900P)。
- ・一部の「テプラ」本体ではテープの種類を自動で識別し、最適な設定で印刷をおこないます(対象機種:SR-R980/SR-R680/SR-R7900P)。[プロパティ]で指定した印刷設定で印刷することで品質を保証できないテープについては自動的に印刷設定を変更します。

参照  「テープカートリッジを使いわける」

- ・ピック＆プリント印刷を設定しているときは、連続印刷をしても印刷されたテープを引き抜くまで次の印刷が開始されません。ピック＆プリント印刷は、対応機種のみ選択できます(対象機種:SR-R980/SR-R7900P)。

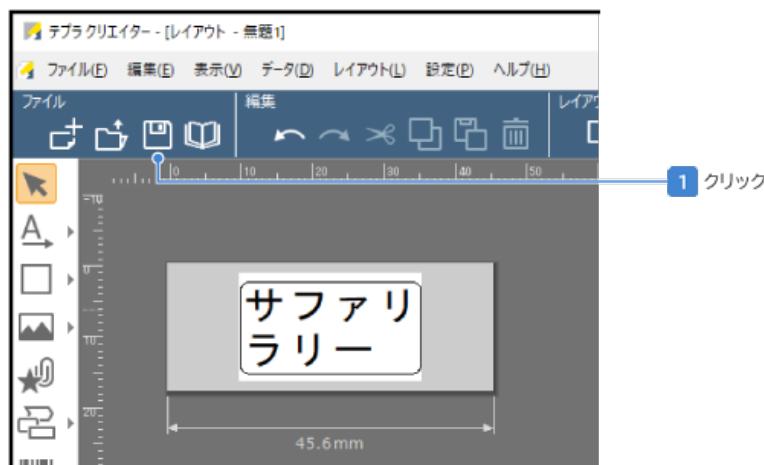
参照  「ピック＆プリント印刷をする」

文書を保存する

作ったラベルの保存は、現在のファイル名でそのまま保存する「上書き保存」と、別のファイル名を入力して保存する「名前を付けて保存」があります。

1

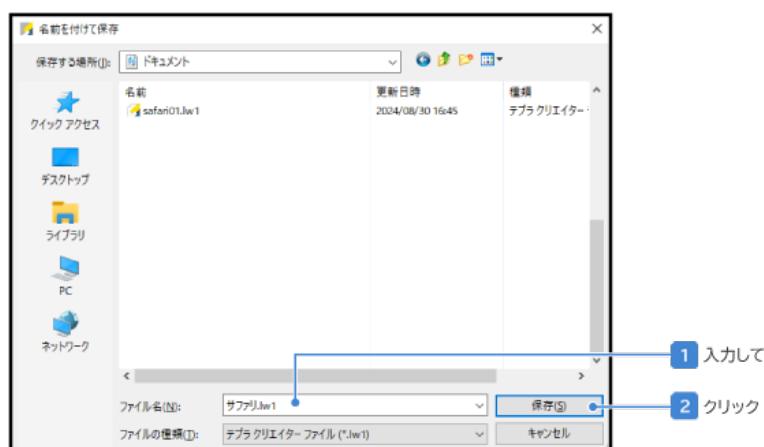
ツールバーの  (保存) をクリックする



ファイルを開いた場所に同じ名前で上書き保存します。新規に作成したラベルの場合は、[名前を付けて保存]画面が表示されます(手順 2 へ)。

2

ファイル名を入力して [保存] をクリックする



作った文書が保存され、レイアウト編集画面に戻ります。

「保存する場所」のフォルダを切り替えて保存場所を変更することもできます。

MEMO

- ・上書き保存は、「ファイル」-[上書き保存]を選択しても実行できます。
- ・別のファイル名で保存する場合は、「ファイル」-[名前を付けて保存]を選択します。「名前を付けて保存」を選択すると、手順 2 の[名前を付けて保存]画面が表示され、ファイルの名前を変更できます。

注意

- ・上書き保存をおこなうと、開いた元のファイルの内容が書き換わります。十分に確認してから上書き保存をしてください。
- ・「テプラ クリエイター」では「テプラ クリエイター ファイル(lw1)形式」で保存されます。「TEPRA SPC10ファイル(tpe)形式」「SPC9 DRAW3ファイル(tpc)形式」のファイルを開いた場合も、「テプラ クリエイター ファイル(lw1)形式」でのみ保存することができます。
- ・「テプラ クリエイター ファイル(lw1)形式」のファイルは「テプラ クリエイター」で使用可能な専用のファイル形式で、そのほかのアプリケーションソフトではお使いになれません。

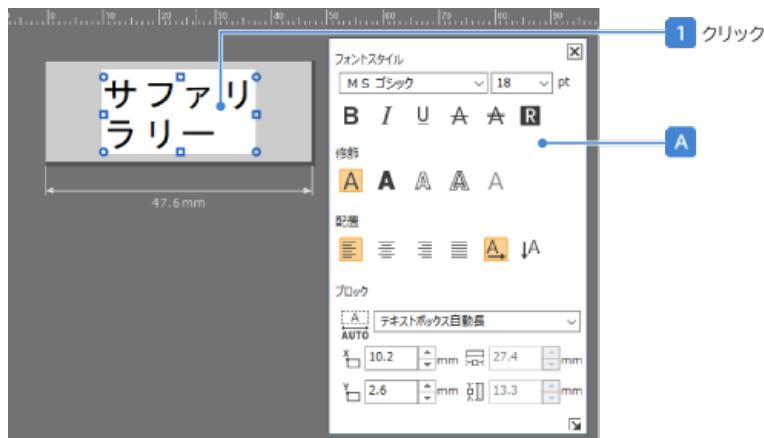
文字の編集

入力した文字は、テキスト設定画面で書体やサイズを変更したり、装飾することができます。

書体を変更する

1

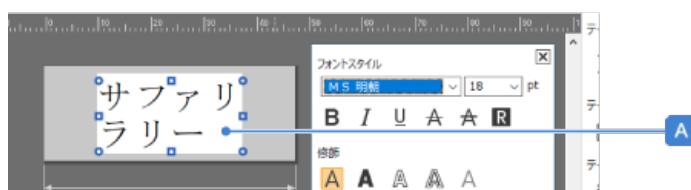
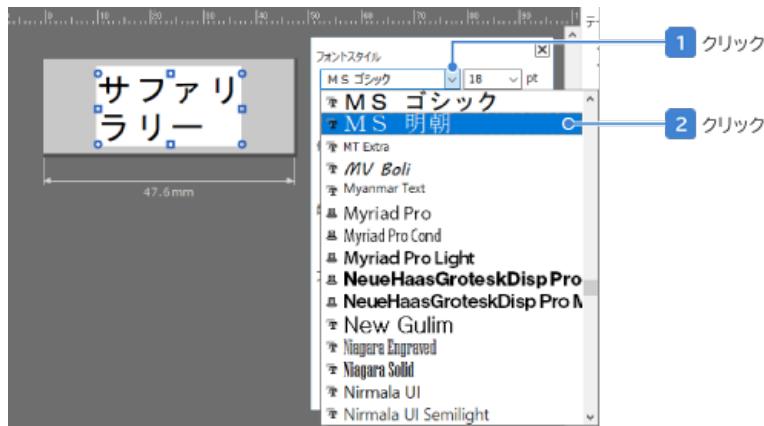
テキストをクリックする



テキスト設定画面(A)が表示されます。

2

テキスト設定画面の[フォントスタイル]で書体を指定する



表示されるリストから書体を選択すると、指定した書体に変わります(A)。

MEMO

- ・パソコンに内蔵されている書体が指定できます。
- ・Unicodeにも対応しています。
- ・一部のフォントを使用した場合、テキストブロックからはみ出して表示されます。表示されているテキストを白い印刷領域内に収めてください。その際、テキストブロックを動かすと残像が出ることがあるので、[表示]-[再表示]をおこなってください。

文字サイズを変更する

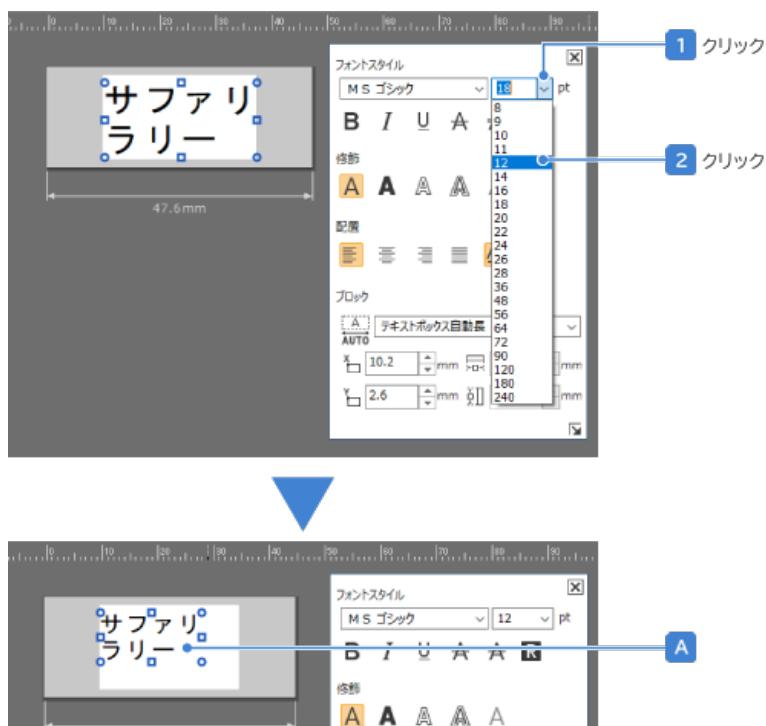
1

テキストをクリックする

テキスト設定画面が表示されます。

2

テキスト設定画面の[フォントスタイル]で文字サイズを指定する



表示されるリストから数値を選択するか、直接入力すると、指定したサイズに変わります(A)。

MEMO

- 「テキストボックス自動長」に設定されているときは、入力文字数や文字サイズに合わせてテキストブロックのサイズが自動調整され、文字サイズを変更するとテキストブロックの大きさも文字に合わせて変わります。「テキストボックス固定長」に設定されているときは、テキストブロックの大きさはそのまま文字サイズのみ変更されます。
- 「テキストボックス固定長」で文字サイズを大きくしようとした場合、テキストブロックに文字が収まらなくなるときは文字サイズの変更が反映されません。
- 文字サイズは、テキストブロックのカドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに拡大、縮小できます。目的の文字サイズで指定するときは、上図のように数値を指定します。また、キーボードの<Shift>キーもしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの縦横比を自由に変更しながら文字を拡大、縮小できます。

縦書きにする

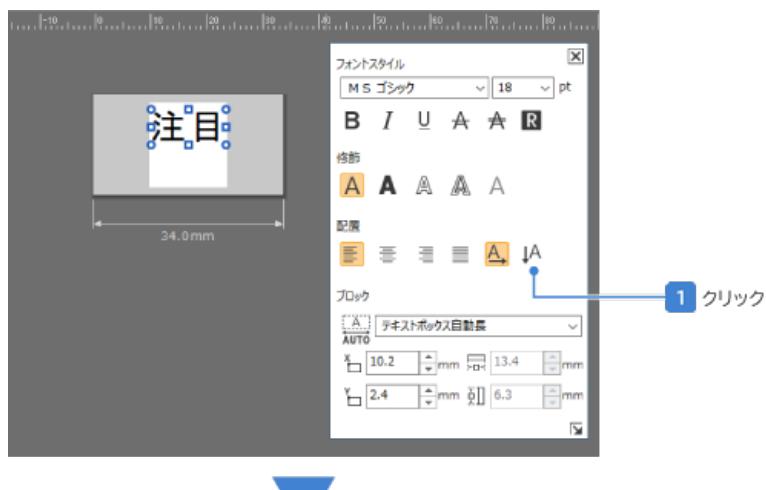
1

テキストをクリックする

テキストブロックがハンドルつきで表示されます。

2

テキスト設定画面の  (縦書き) をクリックする



縦書きに変わります。(A)。

MEMO

- ・縦書きで英数字を入力すると、文字は縦向きになります。
- ・テキストブロックを複数使うと、下図のように、縦書きと横書きが混在するラベルを作成することができます。
例:「テープの置き方」を「縦」に設定した場合
- ・「横書き」に設定したテキストブロック(A)
- ・「縦書き」に設定したテキストブロック(B)



装飾を指定する

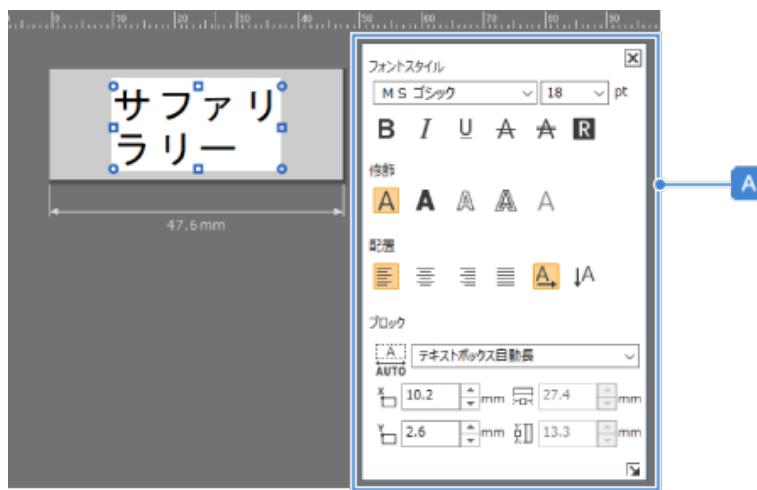
1

テキストをクリックする

テキスト設定画面が表示されます。

2

テキスト設定画面(A)で装飾を指定する



| | |
|-------------------------|---|
| B (太字) | 文字を太字にします。 |
| <i>I</i> (斜体) | 文字を斜体にします。 |
| <u>U</u> (下線) | 文字に下線をつけます。 |
| A (取り消し線) | 文字に取り消し線をつけます。 |
| AA (二重取り消し線) | 文字に二重取り消し線をつけます。 |
| R (白黒反転) | 文字を白黒反転します。 |
| A (装飾・装飾なし) | 文字に「縁強調」「白抜き」「縁取り」「淡文字」の装飾を設定しません。 |
| A (装飾・縁強調) | 文字の輪郭を強調します。太いデザインの文字フォントや画数の多い漢字などは、ツブレが発生することがあります。 |
| A (装飾・白抜き) | 文字を白抜きにします。 |
| A (装飾・縁取り) | 文字に縁取りをつけます。 |
| A (装飾・淡文字) | 文字を淡い色にします。 |
| ≡ (左寄せ) | 文字列をブロック内の左側に配置します。 |
| ≡ (中央合わせ) | 文字列をブロック内の中央に配置します。 |
| ≡ (右寄せ) | 文字列をブロック内の右側に配置します。 |
| ≡ (均等割付) | 文字列をブロック内で均等に配置します。 |
| A (横書き) | 文字列を横書きにします。 |

| | |
|--------------------|---|
| A (縦書き) | 文字列を縦書きにします。 |
| AUTO (テキストボックス自動長) | 入力文字数に合わせてテキストブロックのサイズを自動調整します。 |
| FIX (テキストボックス固定長) | テキストブロックのサイズを変更しません。入力文字数が増える場合は、文字サイズが小さくなります。 |
| □ □ (ブロックの座標) | テキストブロックの左上の位置を指定します。 |
| □ □ (ブロックの大きさ) | テキストブロックのサイズを表示します。ここでサイズを変更することはできません。 |

MEMO

- ・フォントや装飾は、テキストブロックを右クリックして[プロパティ]を選択しても変更できます。
- ・文字サイズは、カドのハンドルをドラッグすると、縦横比を変えずに拡大、縮小できます。また、キーボードの<Shift>キーもしくは<Ctrl>キーを押しながらハンドルをドラッグすると、テキストブロックの縦横比を自由に変更しながら文字を拡大、縮小できます。
- ・操作を間違えて編集した場合は、操作の直後であれば[編集]メニューの[元に戻す]または (元に戻す)で直前の状態に戻すことができます。
- ・グラデーションなどの修飾、文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字のツブレが発生することがあります。

[文字の設定]画面について

[文字の設定]画面は、テキストブロックを選択してメニューバーの[編集]–[プロパティ]をクリックまたは、テキストブロックを右クリックして[プロパティ]を選択すると表示されます。

タブをクリックし、それぞれの項目を設定します。設定の結果は、右側のイメージで確認できます([間隔]タブは除く)。

設定変更後、[OK]をクリックすると設定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

【[文字]タブ】



| | |
|------|-------------------------------------|
| フォント | 書体を選択します。 |
| サイズ | 文字サイズを選択します。 |
| 字体 | 字体を指定します。長体は縦長に、平体は横長になります。 |
| スタイル | 文字のスタイルを指定します。 |
| 枠 | 「テキストボックス自動長」と「テキストボックス固定長」を切り替えます。 |

【[修飾]タブ】



| | |
|--------|---|
| 塗りつぶし | 文字のスタイルを選択します。 |
| 白黒反転する | 文字を白黒反転します。反転したときの背景をベタ(インク色)にするか透明にするかを選択できます。 |
| 文字の輪郭 | 文字の輪郭を選択します。 |
| 太さ | 輪郭の太さを選択します。 |

【影】タブ



| | |
|---|-------------|
| 影 | 影の有無を選択します。 |
|---|-------------|

【間隔】タブ



| | |
|--------|---------------------|
| 文字間 | 文字と文字の間を指定します。 |
| 行間 | 行と行の間を指定します。 |
| ベースライン | 文字のベースラインの位置を指定します。 |

【位置】タブ



| | |
|----------|---|
| ブロックの座標 | テキストブロックの左上の位置を指定します。 |
| ブロックの大きさ | テキストブロックのサイズを表示します。ここでサイズを変更することはできません。 |
| ブロックの回転角 | テキストブロックの回転角度を指定します。 |

MEMO

・[文字の設定]画面で変更した設定内容は、選択したテキストブロックのみに反映されますが、初期設定は変更されません。文字の設定の初期設定を変更したい場合は、[環境設定]画面([設定]→[環境設定]→[文字]→[スタイル]を選択)で変更できます。[環境設定]画面での変更内容は、次回のテキストブロック挿入時より反映されます。

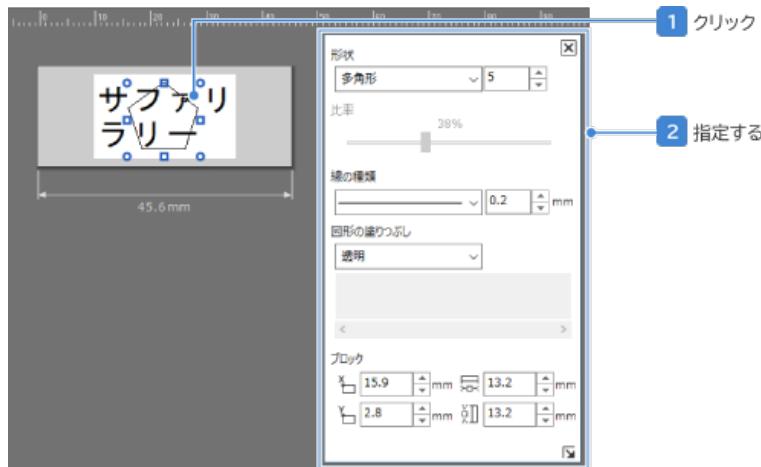
図形の編集

図形は、図形設定画面で線の種類や表面の塗りつぶしを変更できます。

図形を変更する

1

図形をクリックする



図形設定画面が表示されます。

2

図形設定画面で装飾を指定する

| | |
|----------|---|
| 形状 | 多角形/星形の形状を編集できます。 角の数を3~60まで設定できます。 |
| 比率 | 形状が星形の場合、中心から先端部分までの長さに対する、中心からくぼみ部分までの長さの比率を設定できます。比率が小さいほど頂点は細くとがった形状になります。 |
| 線の種類 | 実線、点線など線の種類を変更できます。線の太さを0.1~5.0mmの範囲で設定できます。 |
| 図形の塗りつぶし | 透明、ベタなど図形の塗りつぶしを変更できます。 |
| ブロック | ブロックの座標 : 図形の左上の位置を指定します。 ブロックの大きさ : 図形のサイズを変更します。 |

MEMO

・塗りつぶしを指定した際、テキストブロックが隠れて見えなくなってしまった場合は、図形ブロックを背面に移動してください。

参照 「ブロックを前面・背面に移動する」

・操作を間違えた場合は、直後であれば (元に戻す)で直前の状態に戻すことができます。

注意

・塗りつぶしの多い図形を印刷すると、インクのにじみやツブレが発生することがあります。また、細い線は、力スレや抜けが発生することがあります。

[図形の設定]画面について

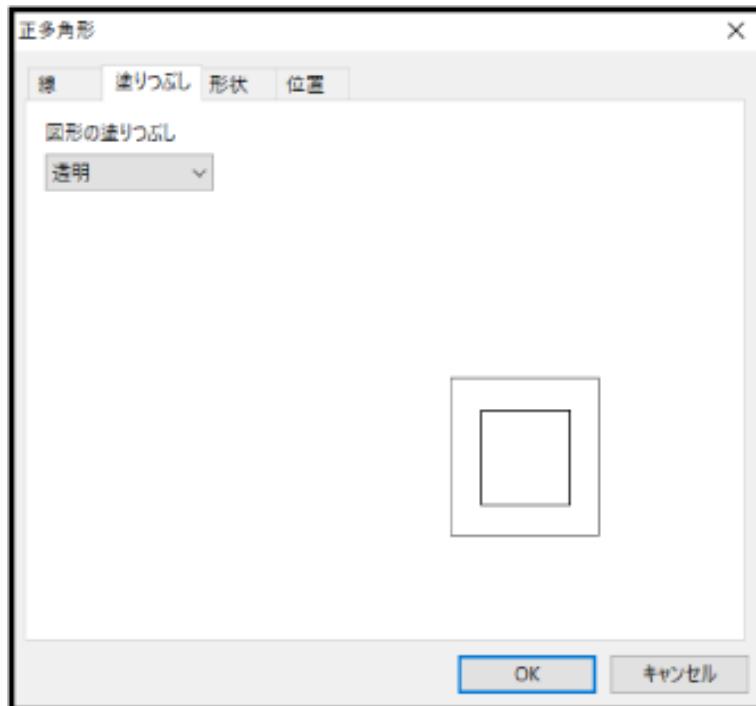
[図形の設定]画面は、図形を選択してメニューバーの[編集]→[プロパティ]をクリック、図形ブロックをダブルクリックまたは右クリックして[プロパティ]を選択すると表示されます。タブをクリックし、それぞれの項目を設定します。設定の結果は、右側のイメージで確認できます。設定変更後、[OK]をクリックすると設定が反映され、レイアウト編集画面に戻ります。

[線]タブ



| | |
|------|---------------------|
| 線の種類 | 線の種類を選択します。 |
| 線の太さ | 線の太さを選択します。 |
| マーカー | 線を矢印にする場合の形状を指定します。 |

【塗りつぶし】タブ



图形の塗りつぶし

图形の模様を選択します。

「パターン」と「グラデーション」を選択した場合は、さらに模様やグラデーションの種類を選択できます。

連続直線や自由線、ベジェ曲線で描画した图形を塗りつぶすときは、あらかじめ [形状]タブの「パスを閉じる」で閉じた图形に設定してください。

【形状】タブ



| | |
|-------------|---|
| 角丸正方形／角丸長方形 | 角の丸みを%で指定します。 |
| 正多角形 | 形状と角数を指定します。星形の場合は比率も指定します。 |
| 扇形 | 形状を扇形、弓形、円弧から選択します。扇形は円の中心から線が引かれた扇形になります。弓形は曲線部分を直線で結んだ状態、円弧は曲線部分のみの表示になります。 |
| パスを閉じる | 連続直線や自由線、ベジエ曲線で描画した図形を閉じた形状(線で囲まれた図形)にします。塗りつぶしを設定するには、この処理が必要です。 |

I [位置]タブ



| | |
|----------|---------------------|
| ブロックの座標 | 図形ブロックの左上の位置を指定します。 |
| ブロックの大きさ | 図形ブロックのサイズを指定します。 |
| ブロックの回転角 | 図形ブロックの回転角度を指定します。 |

MEMO

- ・[図形の設定]画面で変更した設定内容は、選択した図形ブロックのみに反映されますが、初期設定は変更されません。図形の設定の初期設定を変更したい場合は、[環境設定]画面([設定]→[環境設定]→[形状]を選択)で変更できます。[環境設定]画面での変更内容は次回の図形挿入時より反映されます。

ブロックを編集する

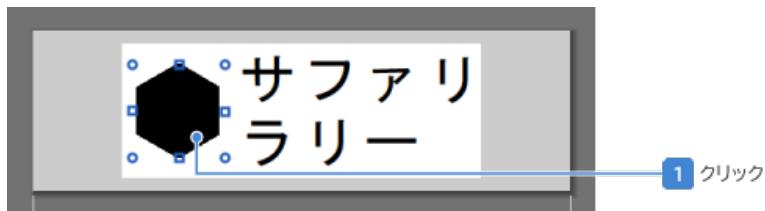
テキストブロックや図形ブロックは、位置を移動したり、同じものを複写することができます。また、重なって隠れている部分の前後を入れ換えたり、複数の要素の位置を揃えて並べることができます。

ブロックを移動する

ここでは、多角形を後ろに移動する方法を例に説明します。

1

移動するブロックをクリックする



ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

ブロックをドラッグして位置を移動する



MEMO

- 操作を間違えた場合は、直後であれば  (元に戻す) で直前の状態に戻すことができます。
- 選択されているブロックは、ツールバーの  (配置)、もしくはメニューバーの [レイアウト] - [配置] から、
 (テープの先端) で左端に、 (テープの末端) で右端に移動できます。
- 選択されているブロックは、パソコンのカーソルキーでも位置を移動できます。

ブロックを複写する

ブロックをコピーして貼りつけると、同じものが複写できます。
ここでは、多角形を後ろにコピーする方法を例に説明します。

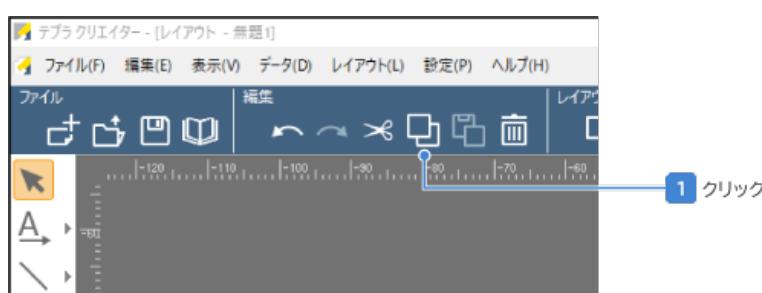
1

複写するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

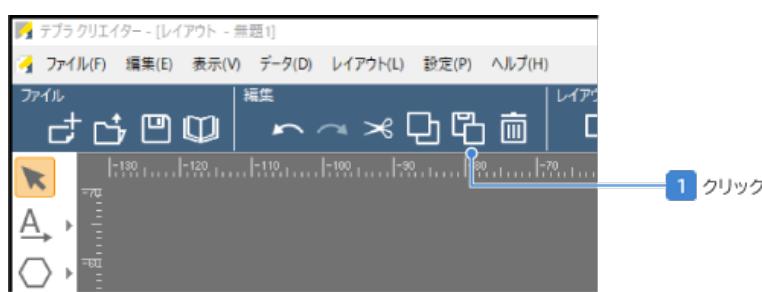
ツールバーの  (コピー) をクリックする



ブロックがクリップボードにコピーされます(表示は変わりません)。

3

ツールバーの  (貼り付け) をクリックする



ブロックがラベル上に貼りつけられます。

4

貼りつけたブロックをドラッグして位置を移動する



MEMO

- 手順 2 で[コピー]の代わりに[切り取り]を選択すると、選択したブロックが削除されます。その後に[貼り付け]を選択すると、切り取ったブロックを貼り付けることができます。
- 手順 3 でさらに[貼り付け]を選択すると、続けて複数貼り付けることができます。
- ほかのソフトでテキストや図形を[コピー]または[切り取り]したあと、このソフト上で[貼り付け]を選択すると、テープ上に貼り付けることができます。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば ⇧ (元に戻す)で直前の状態に戻すことができます。
- [コピー]や[貼り付け]などは、ブロックを選択した状態で[編集]メニューから指定することもできます。また、右クリックをしても表示されます。
- コピーするブロックを選択したあと、パソコンのキーボードの<Ctrl>キーを押しながらブロックをドラッグしてもコピーできます。

ブロックを回転する

ここでは、テキストブロックを任意の角度に回転する方法を例に説明します。

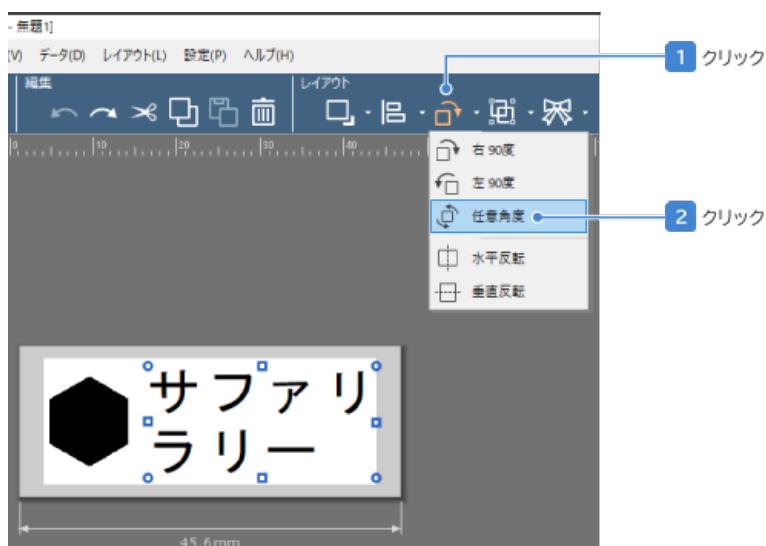
1

回転させたいブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

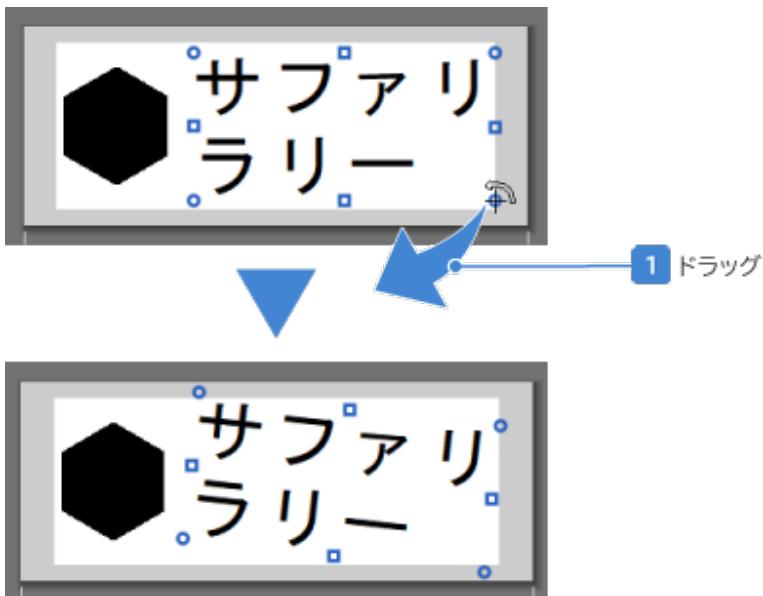
ツールバーの (回転) - [任意角度] を選択する



回転が指定できるようになります(マウスカーソルをハンドルに近づけると、矢印に変わります)。

3

ハンドルをドラッグして回転させる



マウスを離すと、回転角度が固定されます。

MEMO

- 手順 2 で[右90度]や[左90度]を選択すると、右または左に90度回転します(手順 3 の操作は不要です)。
- 手順 3 の操作のあとでさらに回転したいときは、再度手順 2 の操作をします。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば (元に戻す)で直前の状態に戻すことができます。

ブロックを反転する

ここでは、テキストブロックを垂直反転する方法を例に説明します。

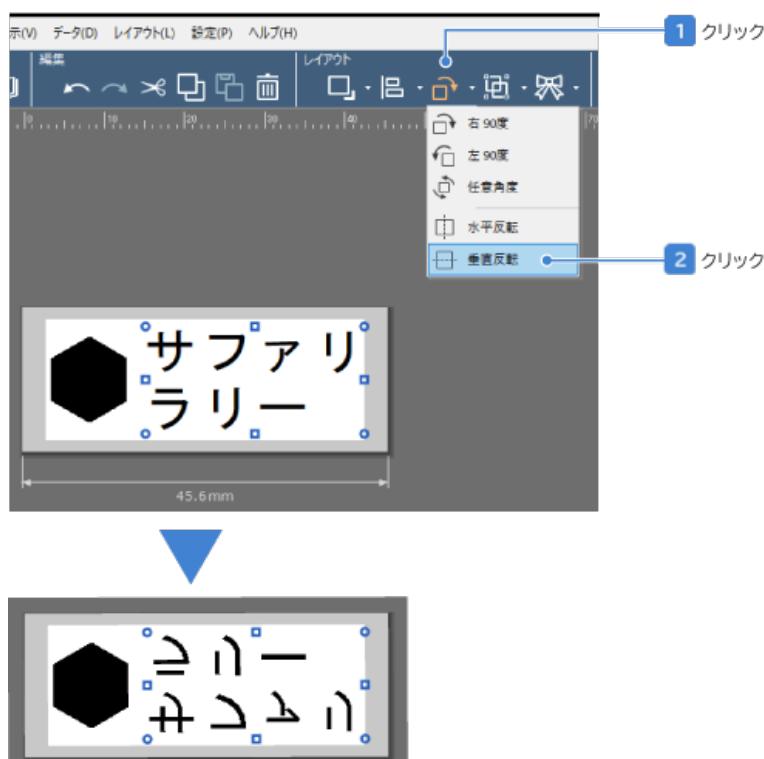
1

反転するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

ツールバーの (回転) - [垂直反転] を選択する



上下に反転します。

MEMO

- 手順 2 で [水平反転] を選択すると、左右に反転します。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば (元に戻す) で直前の状態に戻すことができます。
- グループ化したブロックおよび流し込み機能による流し込み枠は、[垂直反転][水平反転]は選択できません。

ブロックを前面・背面に移動する

ブロックが重なって隠れてしまった場合、それぞれのブロックを背面や前面に移動することができます。ここでは、図形ブロックをテキストブロックの背面に移動する方法を例に説明します。

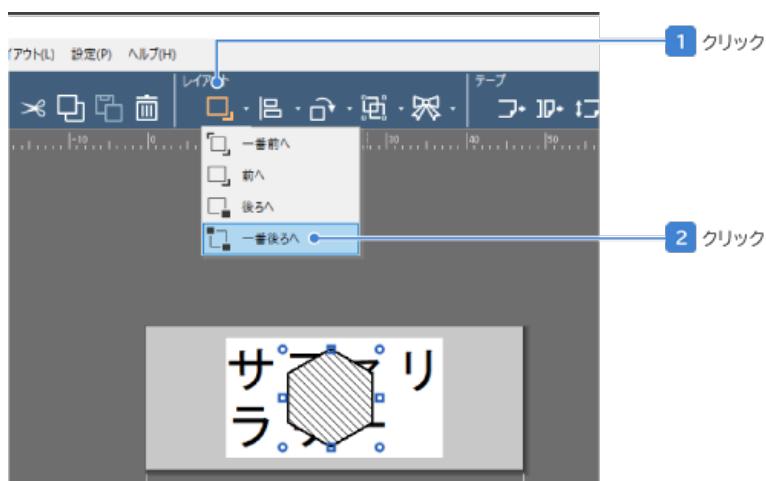
1

移動するブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

ツールバーの  (重ね順) - [一番後ろへ] を選択する



図形ブロックがテキストブロックの背面になります。

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 一番前へ | 選択されているブロックを、重なっている図形の最前面に移動します。 |
| 前へ | 選択されているブロックを、重なっている中で1段階だけ前面に移動します。 |
| 後ろへ | 選択されているブロックを、重なっている中で1段階だけ背面に移動します。 |
| 一番後ろへ | 選択されているブロックを、重なっている図形の最背面に移動します。 |

MEMO

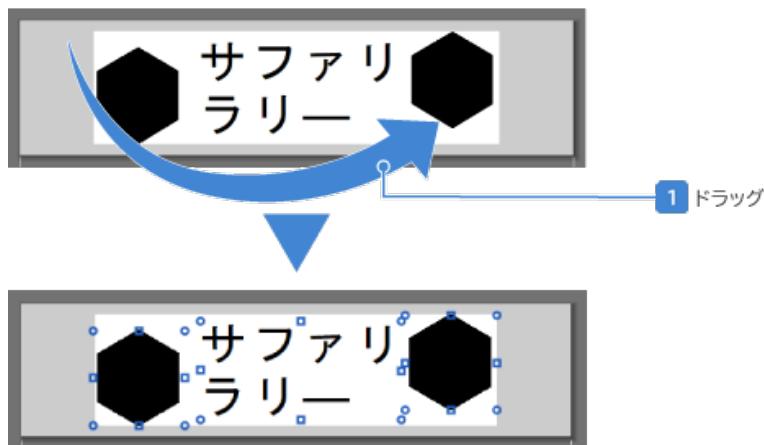
- ・手順 ② で[後ろへ]を繰り返しあなっても同じ結果になります。
- ・手順 ① でテキストブロックを選択し、手順 ② で[一番前へ]を選択しても同じ結果になります。
- ・ブロックの前後関係によっては、背面のブロックをマウスで選択できない場合があります。この場合は、前面のブロックを[後ろへ]移動するなどすれば、選択できるようになります。
- ・操作を間違えた場合は、直後であれば ⌛ (元に戻す)で直前の状態に戻すことができます。
- ・特に設定しない場合、ブロックは作った順に上に重なります。
- ・前後の移動コマンドは、ブロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。

ブロックの位置を揃える

ここでは、各ブロックの上下中央を指定した位置(またはブロック)に揃える方法を例に説明します。

1

すべてのブロックをマウスでドラッグして囲む



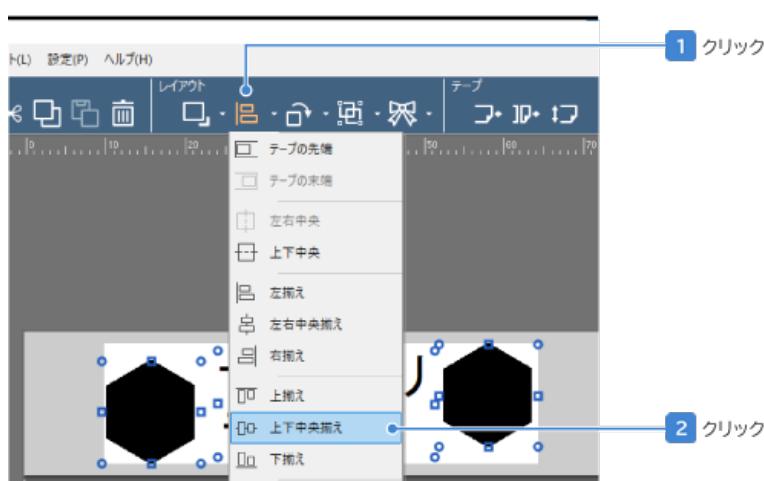
すべてのブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

MEMO

- ・パソコンのキーボードの<Shift>キーを押しながら各ブロックをクリックしても、複数のブロックを選択できます。すべてのブロックを選択する場合は、[編集] - [全体選択]を選択します。

2

ツールバーの (配置) - [上下中央揃え]を選択する



選択しているブロック同士の上下中央位置に移動します。

ツールバーの配置の機能について

ツールバーの (配置)機能には次の機能があります。

| | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> テープの先端 | 印刷範囲(白い部分)上下中央の左端に配置します。選択されたブロックが複数ある場合は、ブロック間の上下位置は変更されません。 |
| <input type="checkbox"/> テープの末端 | 印刷範囲(白い部分)上下中央の右端に配置します。選択されたブロックが複数ある場合は、ブロック間の上下位置は変更されません。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 左右中央 | ラベルの左右中央に揃えます(テープ長「定長」設定時のみ)。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 上下中央 | ラベルの上下中央に揃えます。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 左揃え | 選択した最も左側のブロックの位置にほかのブロックが移動します。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 左右中央揃え | 選択したブロックの左右中央に揃えます。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 右揃え | 選択した最も右側のブロックの位置にほかのブロックが移動します。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 上揃え | 選択した最も上側のブロックの位置にほかのブロックが移動します。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 上下中央揃え | 選択したブロックの上下中央に揃えます。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 下揃え | 選択した最も下側のブロックの位置にほかのブロックが移動します。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 水平等間隔 | 左右の間隔がすべて同じになるよう配置します(ブロックが3つ以上選択されている場合のみ)。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 垂直等間隔 | 上下の間隔がすべて同じになるよう配置します(ブロックが3つ以上選択されている場合のみ)。 |

MEMO

- ・[左揃え]、[左右中央揃え]、[右揃え]ではブロック間の上下位置は変更されません。
- ・[上揃え]、[上下中央揃え]、[下揃え]ではブロック間の左右位置は変更されません。
- ・操作を間違えた場合は、直後であれば  (元に戻す) で直前の状態に戻すことができます。
- ・印刷範囲(白い部分)が複数ある場合は選択したブロックから最も近い印刷範囲内に移動します。

ブロックをロックする

テキストブロックや図形ブロックをロックすると、そのブロックが編集できなくなります。誤って変更すると困る内容は、ロックしておくと安心です。

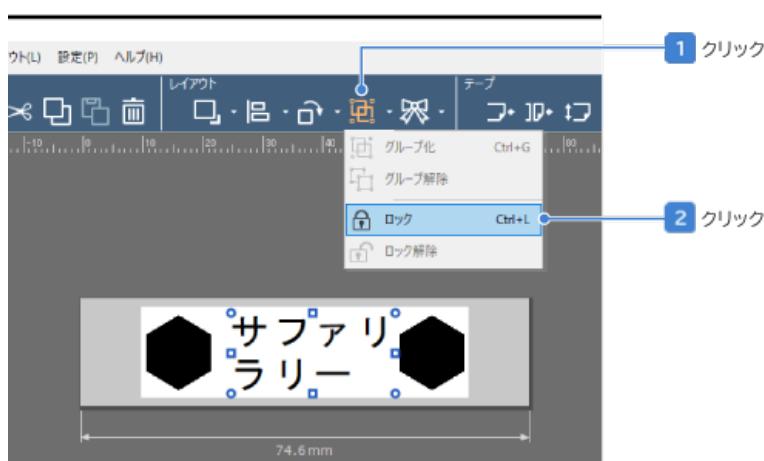
1

ロックしたいブロックをクリックする

ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

ツールバーの (グループ化) - [ロック] を選択する



選択しているブロックがロックされ、編集できなくなります。

MEMO

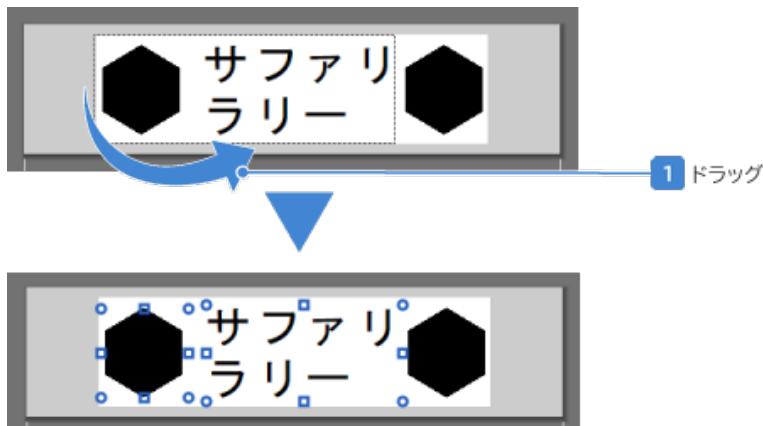
- ・ロック中のブロックは、選択したときのハンドルがグレーで表示されます(A)。
- ・ロックを解除するには、ブロックを選択し、ツールバーの (グループ化) - [ロック解除] を選択します。

ブロックをグループ化する

複数のブロックをグループ化すると、一体のブロックとして編集できるようになります。まとめて位置やサイズを変更したい場合などに便利です。

1

グループ化したいブロックをマウスでドラッグして囲む



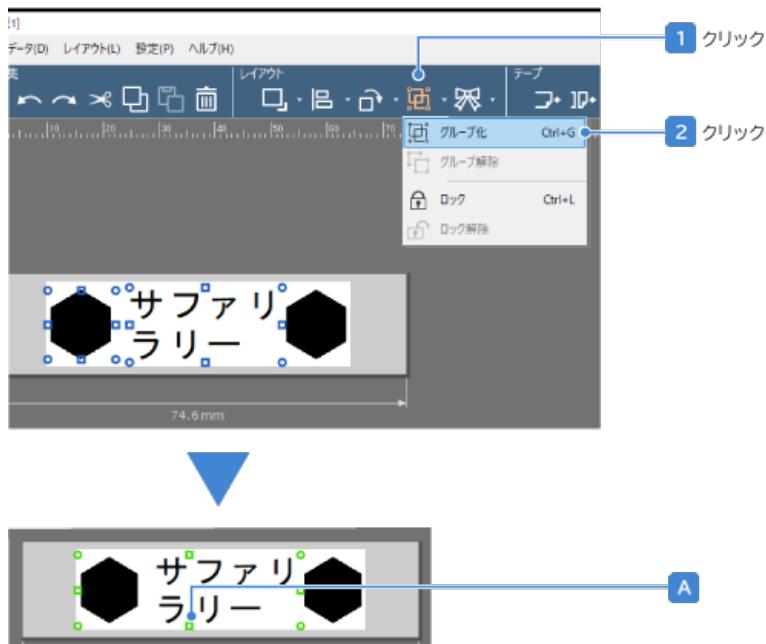
ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

MEMO

- ・パソコンのキーボードの<Shift>キーを押しながら各ブロックをクリックしても、複数のブロックを選択できます。
- ・すべてのブロックを選択する場合は、[編集]–[全体選択]で選択できます。

2

ツールバーの (グループ化) - [グループ化]を選択する



選択しているブロックがグループ化されます。また、ハンドルが緑色で表示されます(A)。

MEMO

- 手順 2 でパソコンのキーボードの<Ctrl+G>キーを押してもグループ化できます。
- グループ化したブロックは、選択したときのハンドルが緑色で表示されます。
- グループ化したブロックは、反転することができません。
- グループを解除するには、ブロックを選択し、ツールバーの (グループ化) - [グループ解除]を選択します。
- [グループ化]は、ブロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。

ブロックを削除する

ここでは、後ろの図形ブロックを削除する方法を例に説明します。

1

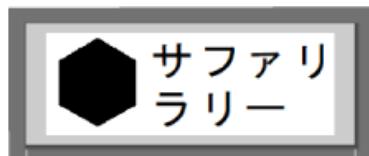
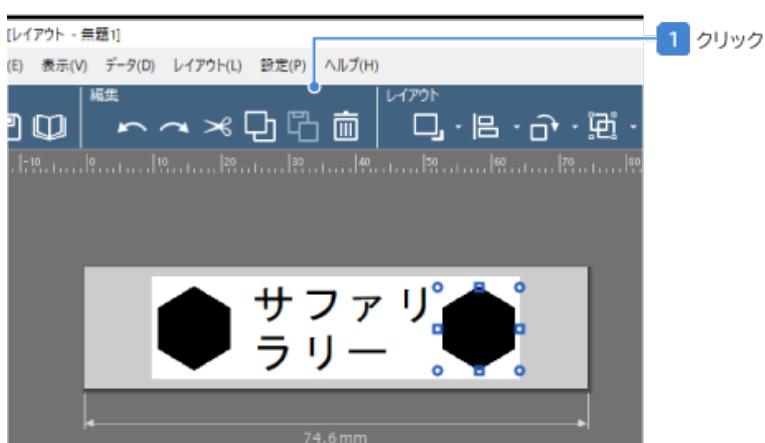
削除するブロックをクリックする



ブロックが選択され、ハンドルつきで表示されます。

2

ツールバーの (削除) をクリックする



選択していたブロックが削除されます。

MEMO

- 手順 2 でパソコンのキーボードの<Delete>キーを押しても削除できます。
- 手順 2 で[編集] - [削除]または[編集] - [切り取り]を選択しても削除できます。
- すべてのブロックを削除する場合は、[編集] - [全体選択]で全ブロックを選択してから削除します。
- 操作を間違えた場合は、直後であれば (元に戻す) で直前の状態に戻すことができます。
- [削除]は、ブロックを選択した状態で右クリックをしても表示されます。